

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 8 年 6 月 8 日	
佐賀県知事 山 口 祥 義 殿	
提出者 住 所 佐賀県伊万里市東山代町長浜1456-4 氏 名 大 和 舗 道 株式会社 代表取締役 池 田 伸 夫 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0955-22-6165(代表)	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	大 和 舗 道 株式会社
事業場の所在地	佐賀県伊万里市東山代町長浜1456-4
計画期間	令和 8年 4月 1日 ～ 令和 9年 3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	[D06] 総合工事業
② 事業の規模	30,500万円
③ 従業員数	28名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	排 出 量	2,605.000 t	t
	(これまでに実施した取組) 我々の業種は、入札制度による受注産業で、受注した工事の内容で産業廃棄物の発生量が著しく変動することもあり、年間の産業廃棄物の発生量を把握しにくいところがあるが、いずれにしても、発生した産業廃棄物は自社中間処理・委託中間処理により、全量、再利用するようにしている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	排 出 量	5,000.000 t	t
	(今後実施する予定の取組) 当社は入札による受注産業であるため、年間発生量は把握できないが 受注した工事の工法を検討し、発生抑制につとめる。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場で発生したアスファルト殻・コンクリート殻は自社処理・委託処理に分別して現場より搬出して中間処理を行っている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場で発生したアスファルト殻・コンクリート殻は自社処理・委託処理に分別して現場より搬出して中間処理を行う。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら再生利用を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	2,503.000 t	t
	（これまでに実施した取組） 現場で破砕した後は、岩塊状になっているので、破砕することによってアスファルト合材用の再生骨材と現場用の再生C rに分類生産することにより100%利用出来ている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら再生利用を行う 産 業 廃 棄 物 の 量	4,000.000 t	t
	（今後実施する予定の取組） アスファルト合材に使用する再生骨材は十分に足りているが、現場で使用する再生C rは大変不足しているので、現場では新規材を使用しなければならないので、自社で確保したい。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら熱回収を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	0.000 t	t
	自ら中間処理により減量した 産 業 廃 棄 物 の 量	0.000 t	t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら熱回収を行う 産 業 廃 棄 物 の 量	0.000 t	t
	自ら中間処理により減量する 産 業 廃 棄 物 の 量	0.000 t	t
②計画	（今後実施する予定の取組） 破砕機の能力は充分あるので、自社でコンクリート殻も破砕できるように用地を確保し、全量自社中間処理を行いたい。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	全 処 理 委 託 量	102.000 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	102.000 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	102.000 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 委託処理において、処理業者の事前調査を徹底している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	全 処 理 委 託 量	1,000.000 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	1,000.000 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1000.000 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	処理業者と委託を結ぶに当たっての現地確認（処理状況・維持管理状況・ 周辺状況）と委託後の定期的な確認をする。		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

7 ※欄は記入しないこと。

様式第二号の八(第八条の四の五関係別紙)

(第2面)

[illegible]

(第3面)

[illegible][illegible]

様式第二号の八(第八条の四の五関係別紙)

(第4・5面)

[illegible]

図 1 作業工程及び廃棄物発生フロー (舗装工事業) 事業所名:大和舗道株式会社



